

2016年版から2年余の間の診断と治療の変更を反映
『食物アレルギー診療ガイドライン 2016《2018年改訂版》』一般販売開始

株式会社協和企画（代表取締役社長：山田淳史、本社：東京都港区）は、10月22日より、『食物アレルギー診療ガイドライン 2016《2018年改訂版》』の販売を開始しましたので、お知らせいたします。

【概要】

- ◎ **監修**：海老澤元宏、伊藤浩明、藤澤隆夫
- ◎ **作成**：日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会
- ◎ **発行**：株式会社協和企画
- ◎ **定価**：本体 3,500 円 + 税
- ◎ **ISBN**：978-4-87794-203-8
- ◎ **体裁**：B5 判、本文 184 ページ、アジロ無線綴じ
- ◎ **改訂・変更のポイント**：

5年ぶりに改訂された『食物アレルギー診療ガイドライン 2016』（以下、2016年版）の発売から2年余の間に、診断や治療に関する動きがあった部分が改訂されています。

大きな改訂点としては、これまでは**α受容体遮断作用を有する抗精神病薬を投与中の患者のアドレナリンは併用禁忌でしたが、アドレナリン自己注射薬（エピペン[®]）では禁忌から削除され、ボスミン[®]では禁忌としない旨が追記されました。**

食物アレルギーの診療は“正しい診断に基づいた必要最小限の食物除去”が基本ですが、本ガイドラインでは子どもの健やかな成長・発達のために、さらに一歩進めて“原因食品を可能な限り摂取させる”ことを目指して解説されています。先行して作成されている『食物アレルギーの診療の手引き 2014』や『アナフィラキシーガイドライン』などから図表を引用して融合を図り、臨床で役立つように内容を充実しています。

◎ **特長**

- ・ヒスタミン遊離試験キットの発売が中止されたことに伴い、記載を削除しました。
- ・牛乳アレルギー除去調製粉乳への微量元素の添加が、すべての製造会社において終了したことに伴い、記載を変更しました。
- ・「アナフィラキシーの治療」で第1選択となるアドレナリンは、これまではα受容体遮断作用がある抗精神病薬（α遮断薬）との併用は禁忌とされていましたが、エピペン[®]では禁忌から削除され、ボスミン[®]ではアナフィラキシーショックの救急治療時は禁忌としない旨が追記されました（併用時に昇圧反転の可能性があることからボスミン[®]外用液 0.1%では引き続き「併用注意」の項で注意喚起とされています）。

※注文は全国の医書取扱書店、また弊社ホームページにて受け付けております。

本リリースに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社協和企画 〒105-8320 東京都港区虎ノ門 1-10-5
担当：提箸（さげはし） TEL:03-6838-9221 e-mail:sage@kk-kyowa.co.jp